

① 記事を読むと、選挙では投票のやり方が2通りあるようです。何と何でしょうか。

由布市長選と市議選（10月15日告示、同22日投開票）を前に、由布高校（市内庄内町）で20日、選挙の出前授業があった。昨年から選挙権年齢が18歳以上となり、選挙権がある生徒を含む3年生約100人が参加した。同市では衆院選の投開票日が重なり、トリプル選挙となる可能性もある。重要な権利を行使する機会に向け、模擬投票を通じて関心を高めた。

由布高で出前授業 模擬形式で手順確認



講師は市選挙管理委員会事務局の職員ら。生徒は投票には所定の欄にスタンプを押す記号式や、候補者の名前を書く記号式があることなど基本事項を教わった。

その後、模擬投票に入り、架空の候補者3人が主張する公約を確認。受け付けを済ませて投票用紙を受け取り、記載台で候補者の名前を記入して一票を投じた。代表者が開票して、結果を発表した。

講師の職員は候補者でない人物の名前を書くなど無効票があったことを指摘。

「何のために選挙に行ったのかとなる。ちゃんと投票しよう」と、権利を大切にしようと呼び

「貴重な権利を大切に」



模擬投票で一票を投じる生徒＝由布高校

選挙と投票 関心持とう

阿部眞さん（18）湯布院町・顔写真右は「公約を具体的に示している人に投票した。投票作業は思った以上に簡単。市長選、市議選には行きたいので、投票の判断材料となる情報がほしい」。

市選管の浦松辰信委員長「同左」は「自分たちが納める税金の使い方を納得する代表者を選ぶのが選挙。貴重な機会であり、若者も投票に行つてほしい」

（指原祐輔）

② この模擬授業を受けた生徒が、投票する上で求めているニーズの一つを、記事から読み取りましょう。

③ もし政治があなたの願いに何か一つ応えて行動してくれるとしたら、あなたは何を要望したいですか？ 自由に考えてみましょう。

（2017年9月22日付朝刊大分由布面）